

東海丘陵湧水湿地群

(とうかいきゅうりょうゆうすいしつちぐん)

位置：北緯35度08分、東経137度21分(矢並湿地)ほか／標高：111～168m(矢並湿地)ほか／面積：22.5ha／湿地のタイプ：湧水湿地／保護の制度：国定公園特別地域／所在地：愛知県豊田市／登録：2012年7月／国際登録基準：1、3

湿地のタイプ：湧水湿地



矢並湿地に咲くシラタマホシクサとミカワシオガマ(写真：大畑孝二)



矢並湿地



矢並湿地での観察会(写真：大畑孝二)



恩真寺湿地に咲くシデコブシ(写真：川島賢治)



上高湿地(写真：大畑孝二)

湿地の概要：

東海地方の丘陵地には、砂礫層や花崗岩などの分布地域に、地下からの浸み出し水による小規模な湿地が形成されている。こうした湿地には、東海地方の固有種や大陸系の種が隔離分布しているなど、特徴的な植物が15種知られ、東海丘陵要素と呼ばれている。

このような湿地を代表するものとして「矢並湿地」、「上高湿地」、「恩真寺湿地」の3つの湿地が東海丘陵湧水湿地群としてラムサール条約湿地に登録された。

これらの湿地は愛知県豊田市の市街地にほど近く、市街地から東へ約4kmの豊田市自然観察の森の一角に「矢並湿地(5.13ヘクタール)」が、そこから北東へ約4kmに「上高湿地(5.45ヘクタール)」と「恩真寺湿地(11.92ヘクタール)」がある。

湧水湿地に生育する希少な植物や動物：

この湿地群の特徴は、狭いエリアに多くの東海丘陵要素植物が見られることである。具体的には、東海地方固有種のシラタマホシクサ、ミカワシオガマ、シデコブシ、ミカワバイケイソウや、大陸系の隔離分布種であるウンヌケなどが確認

されている。特に矢並湿地のミカワシオガマの群落規模は最大級で、秋にはシラタマホシクサとともに見事な花畑を見ることができる。また、湿地に生息する日本最小のハッチョウトンボなど、トンボ類も多数生息するほか、ヒメタイコウチやホトケドジョウなどの希少な動物も確認されている。

かつてはこのような湿地が東海地方各地に点在していたと思われるが、農耕地としての利用や各種開発によりその多くは失われ、同湿地群は残された貴重な湿地といえる。

市民と湿地の保全活動：

1973年、地元植物調査グループにより、シラタマホシクサなどの貴重な植物の生育が明らかとなり、矢並湿地は豊田市によって管理されるようになった。

その後、「日本の重要湿地500」に選定されたことなどを受けて、東海丘陵に特徴的な小規模な湧水湿地に注目が集まり、湿地の保全活動も進められた。矢並湿地、上高湿地、恩真寺湿地でも地元住民を主体とした保全団体が草刈りなどの管理作業をおこなっている。また、矢並湿地で

は一般公開日が設けられ、より多くの市民にその重要性を理解し、楽しんでもらう活動がおこなわれるようになった。

このような動きを受け、2011年には市民と行政とが共同で湿地群を保全活用するための「東海丘陵湧水湿地群保全活用計画」が策定され、様々な主体が交流し、お互いに学び合うための連絡会も開催されている。

●関係自治体

豊田市役所 Tel: 0565-31-1212

